

アクティブ福祉

第52号
2023.2

社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 機関誌



第17回 高齢者福祉実践・研究大会 「アクティブ福祉in東京'22」受賞結果発表!



優秀賞受賞4施設を訪問して行われた表彰の一コマ

p2-3

特集

地域における福祉・介護人材確保の取り組み

p4-5

東京ケアリーダーズが行く! うわさの施設 2施設

東京の介護ってすばらしいグランプリ 2021 受賞施設

「駒場苑」「文京昭和高齢者在宅サービスセンター」

p6-7

新時代旋風

特別寄稿「2024年度介護保険制度改正の
動向とポイントについて」

p8-9

第17回高齢者福祉実践・研究大会

アクティブ福祉 in 東京 '22 受賞結果

p14

東京ケアリーダーズ活動紹介

新生ケアリーダーズに向けて!!

p10... ● 専門委員会リレートーク
第19回: 制度検討委員会

p11... ● 養護分科会トピックス

p12... ● 軽費分科会トピックス

p13... ● センター分科会トピックス

p15... ● 職員研修委員会トピックス

p16... ● 私の心に残るエピソード

p16... ● 編集後記



Facebook
更新中!



高齢協
ウェブサイト



Instagram



KOUREIKYOU



高齢協
会長

@koureikyuo



YouTube



東社協
東京都高齢者
福祉施設
協議会



特集 地域における福祉・介護人材確保の取り組み

新型コロナウイルス（以下、コロナ）の流行から、高齢者福祉業界における地域での人材採用活動は影響を受けています。本特集では、施設長会等により自治体単位での就職イベントなどを実施している地域の施設の採用担当者によるオンライン座談会を通じて、コロナ禍がもたらした影響と、今後取り組むべきことをお伝えします。

※本座談会は令和4年12月26日にオンラインで開催されました。発言や肩書は当時の状況に基づきます。



座談会の様子

参加者（敬称略）

デイサービス博水の郷 センター長、
特別養護老人ホーム博水の郷 副施設長
特別養護老人ホーム第二光陽苑 施設長
特別養護老人ホームひのでホーム
広報戦略課 マネジャー
養護老人ホーム浅川ホーム 施設長

さとう ともみ
佐藤 朋巳

かわい まさゆき
川井 真幸

せきざわ たかふみ
関澤 孝文

しまぎ きつひろ
島崎 勝弘（進行）

コロナ禍による採用活動への影響

採用活動に対するコロナ禍の影響をお聞かせください

佐藤 以前は各地方を回って採用活動をしていましたが、コロナ禍により地方からの採用数は減少しました。職場見学もオンラインで行うことが多く、現場を直接見学していただく機会が少なくなり、就職希望者への説明が行き届かなくなったと感じます。



佐藤 朋巳氏

川井 利用者の生活空間をすべて見てもらうことが難しく、職員がケアを行う姿も見せづらくなりました。また、採用前のマッチングが十分でなかったことが原因で、入職後に離職につながってしまったケースも出てきています。

関澤 学生はオンライン環境への適応が早く、リアルの見学前にオンライン見学をするという流れができています。それに対応するべく、カメラやマイクなどの環境整備を行いました。

島崎 以前は求職者がアクセスしやすい会場を借りて法人の就職説明会を行っていましたが、コロナ禍で休止しています。また、オンライン用の施設紹介PRビデオの制作もしましたが、実際の見学と比べると求職者もイメージがつかづらい印象です。

地域での福祉就職フェアとその開催のための工夫・連携

各地域で行っている就職フェアについてお聞かせください

佐藤 世田谷区は区と共催でイベントを実施。集客が課題で、初回はチラシの配布や学校へ案内をしたものの、来場者は10名程度で満足いく結果とはなりません。2年目はハローワークと協働し来場者は100人を超え、3年目には140人となりました。他の施設種別との違いを前面に出し、結果につながっていると感じます。

川井 練馬区では2020年に会場と各施設をタブレットでつなぎ、来場者がオンライン見学を行うコロナ禍に対応した形で実施。当年は感染の影響から10名程度の来場でしたが、翌年、翌々年は自治体とハローワークと共催することで40名程度が来場しました。



川井 真幸氏

また、当法人の取り組みですが、介護のイメージアップにつなげるため、次世代の福祉を担う小中学生に向けて、施設での体験学習や車いすの使用方法などを紹介する出張授業などを行っています。

関澤 医療・保育・障害などの分野と連動した福祉全体の地域就職イベントとして「日の出町ハートワークフェア」を、コロナ流行前までの3年間開催しました。運営メンバーは現場の担当者で構

成。会場は日ごろから人が集まるイオンモール日の出に、地域福祉のイベントとしてホールを特別料金にてお貸し頂きました。

イベントのコンセプトとして、つながる、伝える、種をまくの三つを掲げています。それぞれ横の福祉サービスのつながり、現場からの自分たちの言葉の発信、小中学生などの未来の福祉を担う方へ福祉の仕事を知ってもらうアプローチを示します。日の出町で働き生活することのPRを第一の目標としています。

島崎 八王子市の各施設では自治体やハローワークと協働して就職説明会を開催することが多くなりました。集客ではポスティングを行っていますが、即時的に効果が出なくても1年後に応募や問い合わせがあるなど、長期的に見た反響がよいと感じます。また、傾向として福祉系の学校以外の学生の採用が増加しています。



島崎 勝弘氏

イベント実施予算確保のための各所との協調

—— イベント実施のための予算はどのように工面していますか？

川井 イベント実施経費は15万円程度、高齢協の地域ブロック会協働活動助成事業の10万円も活用しています。法人参加費は高齢協会員で5千円、その他は1万円としています。会場は練馬区でご用意いただきました。また、区役所の一室を会議（打ち合わせ）や準備室として提供いただきました。

佐藤 座談会やゲストへの謝礼やチラシ関連で費用が掛かっていますが、会場は自治体に提供いただいています。参加費は1法人1万円程度です。

関澤 コロナ禍以前は参加法人の出展費は5万円でしたが、各法人の規模や種別によってその負担感が違い、見直しの必要を感じています。

島崎 イベントを立ち上げる際には多くの費用が必要でしたが、その後は自治体やハローワークとの連携で会場費が抑えられました。

若手職員も巻き込み、施設・地域全体で採用への意識向上を

—— 採用活動に関する今後の方針、取り組みをお聞かせください

佐藤 求職者と会ってお話することが採用につながることで、その機会を増やせるよう取り組みます。また、学校の教員とのつながりを強化し、生徒が進路に悩んだ際の選択肢として福祉を提示いただけるようにしていきます。また、若手職員の意見や発想を取り入れて、彼らの仕事観を発信できる機会を作っていきます。

川井 特養独自のプロジェクトとして「#FACT（ファクト）」と題した具体的な業務内容など特養の事実を広く伝えていく取り組みを進めています。現在は20法人が参画、うち7法人が実行委員となり、施設長・現場職員で企画を進めています。モチベーションの高い若い職員が中心となって実施してほしいという期待もあり、実行委員の入れ替えや事務員や相談員など介護職以外の方も関わることができる形を構想しています。

関澤 求職者は新卒、キャリア採用、他業界からの転職者など様々な方がいるため、それぞれの特性を理解しそれに応じた媒体や見せ方が必要です。世間で広く利用されているSNSや動画を起点として、最も重要なアプローチである施設での対面でのコンタクトにつなげられる流れを作っていきたいと思います。



関澤 孝文氏

島崎 職場として選ばれるには、多くの方に知ってもらい興味を持ってもらう必要がありますので、広報誌やチラシ配布に取り組んでいきます。また、行政やハローワークと関係を築き、地域の方々とのつながりを大切にすることで、ここで働きたいと思われるような発信を続けていきます。また今後も高齢協の活動を通じ、都内の各地域の工夫などを情報交換・共有しながら、人材確保に努めていければと思います。本日はありがとうございました。

■記録・編集：東京新聞 木下 聡文

*参考) 求職者向けに都内各地域の福祉人材センター等で実施している福祉のしごと・相談面接会等の情報は、東京都福祉人材センターのホームページでご覧いただけます。

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/jinzai/sodankai.html>



*この記事のより詳しい内容は、高齢協ホームページの「機関誌アクティブ福祉デジタル」でお読みいただけます。

<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/activefukushi/index.html>



東京ケアリーダーズが行く！

うわさの
施設

東京都高齢者福祉施設協議会の数ある会員（約1200施設・事業所）のうち、表彰や推薦など、名誉ある経験を持つ施設を紹介するコーナー。毎回「うわさ」の施設を東京ケアリーダーズが取材します。

今回は、高齢者福祉施設での日常のさまざまな場面にスポットライトを当てながら、介護の魅力を発信する「東京の介護ってすばらしいグランプリ（以下、東すば）」2021の受賞施設に取材しました。コラム部門で最優秀賞を獲得した特別養護老人ホーム駒場苑と、動画部門の優秀賞を獲得した施設のうち、文京昭和高齢者在宅サービスセンターの職員の方にそれぞれ伺いました。

その19

2021年「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」コラム部門 最優秀賞

特別養護老人ホーム駒場苑 かわぞえ ももこ 川添 桃子さん

作品名 ファンレター

2021年の東すばコラム部門では、ファンレターという形式の目新しさ、少し苦手なご利用者を理解し支えようとする姿勢などが評価された当作品が最優秀賞を受賞しました。受賞者の介護士、かわぞえももこ川添桃子さんにお話を伺いました。



駒場苑 川添 桃子さん

—— 応募のきっかけをお聞かせください

元々文章を書くことが好きで、介護に関するエッセイコンテストなどにも応募していました。その流れで今回の東すばにも挑戦しました。

—— この作品が生まれるまでの経緯をお聞かせください

作品に書かせていただいた女性が印象的で、自身を駒場苑の一員として成長させてくれたと感じていましたので、その方について書くことにしました。また、表現で目新しさを出すために、その方を応援したい気持ちを込めたファンレターという切り口を考えました。

—— 受賞されたことについて、周囲の反響はいかがでしたか

作品がフロア間の交流のきっかけになり、法人全体のケアの向上につながったのではないかと思います。

—— 文章を書くときに心がけていることはありますか

自分の思いだけで書くと話にまとまりがでないため、説明的な部分と感情的な部分のバランスを取るようになっています。介護関係のSNSでは個人の愚痴で終わる発信が多く見られ、介護のイメージを自ら下げているとも感じます。自分の発信では楽しかった、ほっこりしたというポジティブな発信・書き方を心がけています。



高橋 雅之さん（東京ケアリーダーズ）

—— 駒場苑の特徴や施設での取り組みをお聞かせください

介護のコツを短歌の形でまとめた書籍「介護百人一首」をクラウドファンディングで出版するなど、発信力、フットワークの良さが特徴です。私自身もアクティブ福祉での発表やホームページでの外部への発信など様々なチャレンジの機会をいただいています。

—— 今後どのようなことを発信していきたいですか

介護は楽しく素敵なのがたくさんあり、様々なことに挑戦できて知的好奇心を刺激される仕事です。世間の方が想像するよりも深く広く面白い業界だと伝えていきます。

—— ご利用者の人生歴も多種多様で、その方へ合わせた介護ももちろん多種多様です。それを考えていくことが介護の醍醐味の一つだと感じました。本日はありがとうございました。

* 川添さんの作品も含む、『「東すば」2021コラム部門受賞作品集』はこちらから！



<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/documents/koramu.pdf>

* この記事のより詳しい内容は、高齢協ホームページの「機関誌アクティブ福祉デジタル」でお読みいただけます。



<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/activefukushi/index.html>

社会福祉法人愛隣会 特別養護老人ホーム駒場苑

所在地：〒153-8516 東京都目黒区大橋2-19-1 TEL：(03)3485-9823

■取材：東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ たかはし まさゆき 高橋 雅之（みたか紫水園）

■記録・編集：東京新聞 木下 聡文

駒場苑
ホームページ▶



その20

2021年「東京の介護ってすばらしい！グランプリ」動画部門 優秀賞

文京昭和高齢者在宅サービスセンター

作品名 介護の楽しさについて話してみた



文京昭和高齢者在宅サービスセンター 小倉 敬右さん

— 動画のターゲットとコンセプトをお聞かせください

介護業界に興味がある若い世代の方に、介護が楽しい仕事だと伝えることです。私自身、学生時代は介護業界にポジティブなイメージがありませんでしたが、当施設のボランティア体験をきっかけにその考えが変わりました。そのようなきっかけを私自身も発信できればと考えています。

— 当時のボランティア活動ではどのようなことを感じられたのですか

当初、私が介護の仕事に持つイメージは食事や排せつ等の介助でした。しかし実際はそれだけでなく、利用者の生活に寄り添い、外出やイベントなどを通じて望みを叶えるお手伝いをする大事な仕事であり、楽しさとやりがいを感じました。

— 動画撮影・編集の際の工夫をお聞かせください

もともと自施設のYouTubeチャンネルに投稿した動画を応募用に編集したのですが、撮影時には質問は直前に出して、できるだけアドリブにして臨場感を出しました。編集では、映像のエフェクトにはあまり頼らず、字幕でアクセントをつけています。

— 動画作成で参考にするものはありますか？

独学ですが、私の好きなバラエティーやドキュメンタリー番組の影響が動画に出ていると思います。また、他の応募作品を見て、場面の切り替え方や話し手が話したくなる質問の仕方など、参考にしたいことが多くありました。



高橋 雅之さん（東京ケアリーダーズ）

2021年の東すば動画部門では、最優秀賞1作品のほか、2作品が優秀賞を受賞しました。そのうち、実際の仕事場面の動画を通じて、職員の思いや勤務環境などを紹介したドキュメンタリー動画が評価され、優秀賞となった当作品について、受賞者で生活相談員の小倉敬右さんにお話を伺いました。

— 受賞後、周囲の反応や変化はありましたか

受賞以来、職員はYouTubeチャンネル用の動画撮影により協力的になってくれており、イベントの撮影希望も出るようになりました。

— YouTubeチャンネルはどのように活用していますか

昨年立ち上げ、現在19本の動画を投稿しています。施設のイベントの様子や職員の活動などの紹介を通じて、福祉の仕事のイメージアップも目的としています。

— 今後、SNSとの連動は検討されていますか

YouTubeが不定期更新ですので、Facebookではタイムリーな投稿をしたいと考えています。また、Instagramでは若い世代にアプローチし、それぞれ連動させながら関口を広げて相乗効果を出していきたいと思っています。

— 今後の目標をお聞かせください

介護業界に対して、世間の方からはネガティブなイメージがあったとしても、一度体験すればポジティブなイメージに変わると思います。動画の投稿を通じて、業界のやりがい・楽しさを常に発信し、イメージを変えていきたいと思っています。

— 魅力的な側面だけでなく、動画では、福祉に興味がある人が気になる給与や休日など、現実的な面にも触れていたことも良い点だと感じました。本日はありがとうございました。

*「東京の介護ってすばらしいグランプリ」については、以下ページにて概要等ご覧いただけます。



<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/grandprix.html>

*この記事のより詳しい内容は、高齢協ホームページの「機関誌アクティブ福祉デジタル」でお読みいただけます。



<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/activefukushi/index.html>

社会福祉法人芙蓉会 文京昭和高齢者在宅サービスセンター

所在地：〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-31 TEL：(03)5395-2376

取材：東京都高齢者福祉施設協議会 東京ケアリーダーズ 高橋 雅之（みたか紫水園）

記録・編集：東京新聞 木下 聡文

文京昭和高齢者在宅
サービスセンター
ホームページ▶



新時代旋風

〈特別寄稿〉

2024年介護保険制度改正の動向とポイントについて

法政大学大学院公共政策研教科 兼任講師 **かがみ 鏡** **さとし 諭**

1. 始まった介護保険改正議論

近年の介護保険制度改正にかかる議論は、財政規律を優先させる目的から厚労省に先んじて財務省での議論から始まっています。2024年介護保険制度改正に向けて今回も2022年11月7日に財政制度等審議会・財政制度分科会で論点が出されています。

- (1) 訪問介護・通所介護の給付カット：要介護1、2を総合事業化
- (2) 利用者負担を原則2割
- (3) ケアプランの有料化
- (4) 福祉用具貸与のみのケアプラン費・介護報酬のカット
- (5) 介護業界の小規模法人の大規模化

それを受けて、厚労省では次期介護保険制度改正の論点として七つの改革を目指した「給付と負担の見直し」について2022年11月28日の社会保障審議会・介護保険部会（103回）に提出し、議論が進められました。

2. 次期改正にかかる七つの論点

- (1) 被保険者範囲・受給権者範囲
- (2) 補足給付に関する給付の在り方
- (3) 多床室の室料負担
- (4) ケアマネジメントに関する給付の在り方
- (5) 軽度者への生活援助サービス等に関する給付の在り方
- (6) 「現役並み所得」「一定以上所得」の判断基準
- (7) 高所得者の1号保険料の負担の在り方

3. 七つの論点の内容

介護保険制度見直しの七つの論点は、負担増と給付減の内容となっています。

(1) 保険料支払い対象年齢の引き下げ

介護保険制度は40歳から第2号被保険者として保険料を納め、特定疾病を有している者以外は原則サービスを利用できるのは原則65歳からとなります。少子高齢化の影響で40～64歳人口の減少と65歳以上人口の増加が進むことを理由に、保険料納付年齢の引き下げと、サービス利用年齢の引き上げが議論されています。

(2) 補足給付対象者の引き下げ

これは特養などに入所（利用）している低所得者の食費・居住費を減額する補足給付制度の見直しを行おうとするも

のです。昨年の収入・資産要件を改正では多くの入所者を対象外として月2万～7万円の負担となったのに続いて、今回の改正では資産要件にこれまでの金融資産に加え、新たに不動産を要件にすることが論点に入ったのです。これらの改正が続けば、今後持ち家があれば補足給付の対象外する事が懸念されます。

(3) 老健多床室のホテルコスト導入

制度開始時は保険から給付されていた特養ホーム等の入所者の水光熱費等を、2006年4月から「在宅で介護保険サービスを利用している人との公平性」を理由に保険給付から外し、新たに食費と光熱水費を自己負担としました。今回は介護老人保健施設等の多床室の部屋代を保険給付から外すことを検討しています。

(4) ケアプランの有料化

要介護状態にある者が様々なサービスを組み合わせて、その人に最適のサービスが組み合わせられるように、一人ひとりの状態に応じてケアマネジャーが作成するケアプランは介護保険制度の肝であり、利用者負担の無い10割給付で進めてきましたが、無料であるがゆえに質の向上が図れない等の意見や、利用者のデマンド契約になっているなどの批判があり、利用者負担を課すことを検討しています。しかし、その場合ケアプラン作成にかかる費用負担により、利用を控えることなどが懸念されています。特に、経団連は有料化を強力に求めており、前回の改正議論の際にも論点となりましたが、今回も引き続き論点に入りました。

(5) 要介護1・2の「軽度者」の訪問介護を給付から外す

保険給付抑制へ財務省や経団連が最も重視するのが、要介護1、2を「軽度者」として訪問介護などを保険給付から外し、市区町村が運営する「総合事業」へ移行させることです。すでに要支援1、2を総合事業へ移行させたことで、保険料を払っているのに必要なサービスが受けられない状況となりました。また、介護報酬より地域支援事業費の単価が低いいため介護事業所の経営悪化が進むといった問題が生じています。

(6) 利用者負担を1割から引き上げ

介護保険サービスの利用者負担は原則1割ですが、介護保険制度の改正のつど一定所得以上の者に2～3割負担を導入してきました。厚労省は今回、医療では75歳以上の窓口負担が2割以上の人が約30%いるのに、介護保険で

は利用者負担が2割以上の人は8・9%と主張しており、10月に窓口負担増を強行した75歳以上の医療改正と同様に、介護の2～3割負担の対象者の拡大を進めようとしています。

(7) 高所得者の保険料負担の引き上げと低所得者の保険料の引き下げ

65歳以上の介護保険料は、制度開始時には全国平均で月額2911円でしたが、第8期(2021年から2023年度)では6014円と2倍以上になっています。この先の2040年には9千円を超える見通しも示されており、今後も利用者の拡大とともに給付額が増加し、あわせて保険料も高くなることが予想されます。そこで、厚労省は「高所得者」の負担を引き上げ、逆に低所得者の負担増を抑える方向性が示されたのです。若い世代に付け回しするのではなく、高齢者間で痛みを分け合うことを期待しているのです。

4. 議論の方向性

給付と負担の見直しについて、社会保障審議会・介護保険部会で議論が進められています。要介護1・2の人の通所介護・訪問介護を市区町村の地域支援事業に移行するかについては、是非を含めた検討を進めるため、厚生労働省はより詳細の現状把握が必要と認識しています。そのため要介護1・2の地域支援事業の移行は見送られる可能性が高くなっています。これらは、統一地方選の影響も懸念してのトーンダウンとみられます。

一方で、支払い能力のある高齢者の負担拡大は、財務省の議論でも優先度が高く、今回の改正で検討が進められています。この場合、利用者の負担額が2倍になる範囲が拡大されれば、利用控えや利用中止等の影響が懸念され、事業運営にも影響を及ぼす可能性があります。

(1) 要介護1・2の訪問介護・通所介護の総合事業への移行などは継続審議

「給付と負担の見直し」を巡る検討では、次の3つは結論がでていません。

- (1) 被保険者範囲・受給権者範囲
- (4) ケアマネジメントに関する給付の在り方
- (5) 軽度者への生活援助サービス等に関する給付の在り方

(1)の保険料の徴収やサービス給付の対象年齢を引き下げるか、(4)ケアマネジメントに利用者負担を導入するか、(5)要介護1・2の人への訪問介護と通所介護を介護予防・日常生活支援総合事業に移行するかについて、議論が進められてきましたが、意見の対立や「これまでの施策の効果計測が不十分である」といった指摘が続き、合意形成には至っていません。したがって、これらの論点は、実態調査や分析を行うなどして2026年の法改正に向けた検討で引き続き、議論が深められていくことになる見込み

です。

(2) 応能負担の強化が改正の目玉

介護保険部会では、この後次期介護保険制度改正に向けた提言をとりまとめます。その内容は、今後提出される介護保険制法改正案や介護報酬改定の方向性に大きな影響を与えることになります。

今回の改正で厚労省が、積極的に進めようとしているのが、財務省の議論でもあった65歳以上の高齢者の負担拡大についてです。具体的には「現役並み所得」「一定以上所得」の判断基準を見直して、原則1割負担を2割負担及び3割負担の対象範囲の拡大を進めるものです。

厚労省は、提言とりまとめのため2022年11月28日の介護保険部会でこの基準をどのように見直すか、意見を求めました。しかし、利用者の2割・3割負担の対象範囲を拡大することについては、サービスの利用控えにつながるなどが一部委員から懸念が示されました。これに対し、厚労省は、「2割負担や3割負担の導入時(それぞれ15年8月、18年8月)にはサービス利用に顕著な差は見られていない。」「2割負担や3割負担の導入以降も利用者の実質負担率は増えていない」などの見解を示しました。しかし、近年は医療保険制度でも高齢者の負担拡大が続いていること、さらに介護サービスは一度利用を開始すると長期間継続するといった介護保険利用の特性について等の影響及び2割負担や3割負担の対象拡大が行われた影響等については予測されていません。したがって、今後さらに議論が進むことになります。

またもう一つの論点が、(7) 高所得者の1号保険料の負担の在り方です。

65歳以上で高所得者(単身で年収340万円以上であることなどが要件)の介護保険料の引き上げについてです。この見直しは、低所得者の保険料引き下げとあわせて提案されています。現在は、年間所得が320万円以上の人の保険料が最も大きくなる仕組みですが、この基準を見直すことが提案されています。

この利用者負担や保険料における応能負担の強化については、2024年度の制度改正の中心となる可能性が大きいと見込まれます。



鏡 諭氏

第17回高齢者福祉実践・研究大会 アクティブ福祉 in 東京' 22 受賞結果

<アクティブ福祉 in 東京' 22 >

介護現場での取り組みや研究発表から、ともに学び専門性を高め合い、東京の高齢者福祉の質の底上げを目指すことを目的にオンライン配信にて開催。

優秀賞受賞施設には実行委員会とアクティブくんが表彰訪問しました。

<優秀賞>

審査は学識経験者や福祉・介護団体関係者行い、各テーマにおける総得点数が最も高かったもの

<日本介護福祉士養成施設協会東京部会 奨励賞>

学生発表2題

テーマA 介護ロボット・ICT・IoT / 業務改善・生産性向上

👑優秀賞

【事業所】舟渡居宅介護支援事業所（社会福祉法人 不二健育会）

【発表者】蓮沼美歩さん

【主 題】コロナ禍における新規ケアマネジメントの作業時間を短縮させる取り組みと効果について

第2位：特別養護老人ホーム等々力の家（社会福祉法人 奉優会） / 渡邊優香里さん・アンキ パレフィ プテラ ハリヤンディさん / 等々力式眠り革命

第3位：ベストリハ株式会社 / 山本健太さん / 介護 DX について



舟渡居宅介護支援事業所の皆さん

テーマB 日常ケア・認知症ケアの向上

👑優秀賞

【事業所】特別養護老人ホーム第三南陽園（社会福祉法人浴風会）

【発表者】菅祐一郎さん・吉田晶美さん

【主 題】自立支援の視点でケアを行う事でコミュニケーションの本質的な力を実感した研究

第2位：特別養護老人ホーム駒場苑（社会福祉法人 愛隣会） / 川添桃子さん / 発達障害が疑われる特養入所者に対する、特性を踏まえた関わりの効果について

第3位：東京令和館中野（社会福祉法人 東京武尊会） / 森田由紀さん / 胃全摘術後10年が経過した利用者が食事摂取量増加に繋がった事例



第三南陽園の皆さん

テーマC 地域包括ケア・地域貢献・地域共生社会

👑優秀賞

【事業所】特別養護老人ホーム南陽園（社会福祉法人浴風会）

【発表者】鶴田崇さん

【主 題】手作り布マスクとお手玉からつながる地域の輪

第2位：調布市地域包括支援センターときわぎ国領（社会福祉法人 常盤会） / 小島泰之さん / 複数の団地集会所をオンラインで繋いだハイブリッド型の地域ケア会議の効果

第3位：みずべの苑地域包括支援センター（社会福祉法人 うらら） / 村井義子さん・由井洋子さん / コロナ禍でもできる地域とのつながり



南陽園の皆さん

テーマD 次世代を見据えた人材採用・育成・定着・経営・リスクマネジメント

👑 優秀賞

【事業所】 砧ホーム（社会福祉法人友愛十字会）

【発表者】 三浦好顕さん

【主 題】 福祉施設における社会貢献としてのSDGsの取り組み方についての一考察

第2位：特別養護老人ホームさくらのみち紫苑（社会福祉法人 櫻灯会）／小林貴洋さん／チームリーダー育成のための事業所間研修による事業所の意識向上及び課題検討

第3位：特別養護老人ホームおぎくぼ紫苑（社会福祉法人 櫻灯会）／野村誠也さん／多職種協働による共通認識統一の為の新入職員向け人材育成ツール作成の取り組み



砧ホームの皆さん

日本介護福祉士養成施設協会東京部会奨励賞

①日本福祉教育専門学校（学校法人 敬心学園）／佐々木あやさん
「日常ケアにおけるQOLの向上」

②日本福祉教育専門学校（学校法人 敬心学園）／
レー ティ タン タオさん・レイ ティ タムさん・ホアン ティ フォン
さん・マイ ティ スアン ティさん
「ベトナムと日本の高齢者の生きがい」



日本福祉教育専門学校 佐々木あやさん

Check! 大会開催報告・抄録は高齢協ウェブサイトから



受賞者のコメントも含めた今大会のダイジェスト版動画を作成予定
完成後高齢協 Youtube サイトにアップします！お楽しみに ✨



日本福祉教育専門学校 ベトナム人留学生の皆さん

令和5年度 機関誌「アクティブ福祉」読者モニター募集!!

高齢協の取り組み等について情報を届ける紙面づくりにご協力いただく方を募集いたします。

●依頼内容

発行の都度、機関誌に関する客観的なご意見やご感想を伺います。WEB上の回答フォームから入力いただきます。
(必要時間：15分程度)

- (1) 依頼回数 令和5年度内 全4回(令和5年6月・8月・12月、令和6年2月) 予定
- (2) 対象 東社協 東京都高齢者福祉施設協議会 会員施設・事業所 職員 20名
- (3) 謝礼 1回あたりクオカード500円

●応募方法(次のいずれかの方法)

(1) 下記QRコードから応募フォームに直接アクセス

<https://form.run/@kourei-tcsw-1675215112>

(2) 東京都高齢者福祉施設協議会ウェブサイト トップページから

トップページ→「高齢協の広報メディア」をクリック→応募フォームより入力



応募フォームQRコード

●応募締切

令和5年3月27日(月)まで

※応募多数の場合、抽選により決定いたします。

専門委員会リレートーク

第19回 制度検討委員会

東京都高齢者福祉施設協議会内の専門委員会※に所属する委員から、委員会の活動内容や、ご自身の法人・施設・事業所でのホットな話題、新しい取り組み、他施設に教えたい情報を伝えるページです。

制度検討委員会 委員長

社会福祉法人博仁会 和楽ホーム

みやざわ よしひろ

施設長

宮澤 良浩

活動の内容

制度検討委員会では、年間6回程度の委員会をとおして、介護保険制度上の諸問題について実態調査等を実施しています。その中で見えてくる大都市東京としての諸課題について分析し、高齢者施策に関する国、東京都の制度、政策、自治体の取り組みなどに対する要望、提言活動に資する活動をしています。



制度検討委員会（オンライン開催）の一コマ

《今年度の活動》

毎年、実施している「東京都内特別養護老人ホーム入所（居）待機者に関する実態調査」を、今年度より各専門委員会が実施されている調査を1つのパッケージにし、「特別養護老人ホーム基礎調査」として実施致しました。都内特別養護老人ホームの相談員の皆様にご協力をいただき、待機者像の実態把握や、待機者減少における背景などと共に、都内における施設整備の進展の影響などについて、検討、分析を実施しました。今年度の調査結果から明らかになったポイントをご紹介します。

【令和4年度東京都内特別養護老人ホーム入所（居）待機者に関する実態調査】

- ①待機者名簿の管理は、自治体によって大きく異なり、実際の待機者数の明らかにするには申込及び名簿管理方法を全都的に統一するなどの改善が必要。
- ②待機者減少による危機感から各施設において「申込者数=待機者数」ではなく「入所判定基準等をクリアした入所（居）可能な方」を待機者数としている施設が増加傾向にある。
- ③入所申込者には「医療ニーズが高い方」が増加しているも、入所に至らない理由として「医療依存度の高い方」が挙げられており、待機者数と実際の入所可能な人数には乖離がある。
- ④都内の特養で年間68万床が空床となっており、空床の要因として、入院者の増加や入所日の調整が難しく退所から新規入所までの日数として中央値で20日間もの日数を要している実態がある。
- ⑤令和3年度の都内特養での退所者数は7800人を超え、1施設平均で27.6%の退所者が各施設の発生していることになる。

予定している取り組み

来年度も「特別養護老人ホーム基礎調査」を実施し、特養における入所待機者等に関する実態調査を実施し、都内全域での待機者等の動向、地域別の諸課題などを分析します。また、次期介護保険制度改正に向け、制度上の課題などの検証を含め、高齢者施策に関する国、東京都の制度、政策、自治体の取り組みなどに対する要望、提言活動につなげていきます。

▶待機者調査の結果報告書は高齢協ホームページの「提言調査」に掲載されています。

<https://www.tcs.w.tvac.or.jp/bukai/kourei/chosa/2022-1222-1022-53.html>



※制度検討委員会、経営検討委員会、施設管理検討委員会、利用者支援検討委員会、人材対策委員会、災害対策検討委員会の6つの委員会の総称。各委員会には都内各地域の高齢者福祉施設より20名前後が委員として集まり、それぞれのテーマに沿った協議や研修会の開催等を行っています。



吉祥寺老人ホームでの 利用者の状況について

社会福祉法人至誠学舎東京 吉祥寺老人ホーム

生活相談員 こ いずみ ち か こ
小泉 千加子

< 利用者像の変化 >

近年、吉祥寺老人ホームへ入所される利用者像も変化しています。以前は、身体機能や認知機能については大きな問題はないものの、生活を営む上での能力、金銭管理や健康管理、清潔保持や他者とのコミュニケーション能力が低いがために対人関係の調整など可視化しにくい細やかな支援を必要としていました。今でもそういったニーズはあるものの、精神疾患や虐待で精神的な支援を要する方や、重度者加算の対象とはならない医療ニーズが高い方への受診付添い、支払い滞納による立退きを受けた方等の支援が増えてきました。

また、特養入所が可能な要介護3にはならないけれど、ADLが低下しているために独り暮らしの継続が困難になった方の早期入所依頼も増え、介護サービスのニーズも広がり様々な支援に多くの時間を要しています。

吉祥寺老人ホームでは、施設環境や設備等の体制上、看取り等には対応しておりませんが、養護老人ホームは「セーフティーネットの役割を担う」ということから、可能な限り処遇困難な方々を受け入れています。

< 施設での自立した生活とは >

コロナ禍で、今まで実施してきたクラブ活動も縮小されていますが、利用者自ら活動性を上げようと散歩や、毎日の運動を心掛けてもらい継続できるように支援しています。

入所後、歳を重ねるとともに感じる老いへの不安や、自尊心、初めて介護サービスを利用することへの羞恥心や反発を少しでも和らげられるようにしていきます。

また、様々なサービスを利用しながら、養護老人ホームでの生活が少しでも長く継続していくために、過剰な支援にならないよう注意しつつ、日常生活で自己決定できるように説明をするなどして、健康や精神の安定を図り、その上で施設での生活を自分なりに組み立てられるよう寄り添える支援をしていきたいと考えています。



吉祥寺老人ホーム 施設外観



ティップネスの講師を迎えて ZOOM での体操

吉祥寺老人ホーム
ホームページ▶





軽費老人ホーム 感染症BCP作成

社会福祉法人奉優会 渋谷区ケアハウスせせらぎ

事業所責任者 **篠原 大輝**



渋谷区ケアハウスせせらぎ（ケアハウス 定員 84 名・個室 48 室／二人部屋 18 室）は東京都渋谷区にある軽費老人ホームです。渋谷区総合ケアコミュニティ・せせらぎ内にあり、地域密着型特別養護老人ホーム・高齢者在宅サービスセンター・認知症対応型デイサービス・若年性認知症対応デイサービス・カフェ事業・配食事業を併設しております。閑静な住宅街に位置し、周辺にはスポーツセンターや図書館、保育園、小学校、中学校があり、京王線「笹塚駅」・「幡ヶ谷駅」・「初台駅」をつなぐ自然豊かな緑道のある環境です。緑道は町内会と一緒にケアハウスご入居者も清掃活動に参加しています。

当ケアハウスは要支援2までの方がご入居可能なため、日用品の買い物や定期受診等、個人の外出が毎月約 400 件ほどございます。外出することが介護予防になっているため、過度な制限をかけることは健康寿命の観点からも好ましくありません。また、訪問診療や訪問系介護サービスの出入りもあります。

【独自の感染症BCPの作成について】

特別養護老人ホーム等の入居施設で行われている完全隔離のクラスター対応はケアハウスの特性上実施が難しいこと、制度上の配置人数ではマンパワーにも限界があります。そこで独自の感染症BCP作成が必要だと判断しました。厚生労働省の「新型コロナウイルス感染症発生時の業務継続ガイドライン」を参考に、東京都福祉保健局の「東京都高齢者施設等BCP策定支援事業」のセミナーへ参加しました。暫定BCP作成後、訓練で気づきを共有し5回の更新を繰り返しました。また、東京都福祉保健局の「即応支援チーム」の方に現地のご確認とご助言を頂くなど、多方面の方々にご協力を賜りました。

ポイントは初期対応ですが、個室（ご夫婦世帯は二人部屋）対応できることが強みとなりました。配食事業をしていることもあり、食事をお弁当形式で提供することが可能です。陽性になったご入居者が入院する際の館内の移動経路、リセット消毒、必要な物品、施設療養時の夜間対応等を整えました。

自立が故に、これまで主治医やお薬内容、介護保険被保険者証、延命措置の意向に関してアセスメントが難しい課題がありましたが、BCP作成をきっかけにご入居者のことをより知ることができ、結果、保健所や病院との連携がスムーズにできるようになりました。感染症対応以外の危機管理にとって重要な進展でありました。

ご入居者をご不安にならないよう、新型コロナウイルス感染後の施設の対応をご認識頂くこと、ご家族や行政、保健所、病院との連携等々、情報提供も大切でした。公表できる情報は素早く提供する反面、個人情報保護、風評被害にも配慮しなければなりません。

渋谷区ケアハウスせせらぎ
ホームページ▶





センター分科会支援センター分会、 地域包括支援センター委員会の活動について

社会福祉法人白十字会 東村山市北部地域包括支援センター センター長
支援センター分会 地域包括支援センター委員会委員長

え び はら つとむ
海老原 努



初めまして、支援センター分会の地域包括支援センター委員会の委員長になりました。東村山市北部地域包括支援センターの海老原努と申します。

支援センター分会（旧センター部会支援センター分科会）の委員会活動は、平成18年の地域包括支援センター発足の時に、3職種（社会福祉士・主任介護支援専門員・保健師）がどのように仕事をしたらよいのか、在宅介護支援センターとはどのようなことが異なるのか、何を担うべきなのか？と包括のあり方を考える会として発足しました。その後委員も増え、ケアマネジメント支援委員会・ネットワーク委員会と2つに分かれ、居宅介護支援事業所と包括の主任ケアマネについてヒアリングをしたり、研修等を行いました。そんな包括も発足から16年という年月が経ち、コロナにより世の中も変わり、人とのつながりや関わり方に変化が起こりました。我々が得意としていた、人との関わりや、つなぐという行為が行えない閉ざされた3年間でした。もちろんそれだけではなく、時代背景にも変化が起き、8050だけでなく多問題家族のケースから、毎日当たり前のように包括に連絡が来ます。

そして、予防プランは包括、サロンも包括、ヤングケアラーも、あれもこれも包括と言われ、包括職員はただ疲弊しています。また、発足当初40代であったベテラン職員の定年や退職。今の包括支援センターを動かすのは、ベテランと新人職員の5020といわれるところもあります。現状、包括を希望する職員も少なく、採用・雇用問題もあり、3職種が補えなくなりつつあります。

【地域包括支援センター委員会で目指すもの】

そのような16年も、悪いことばかりではありません。絶対に皆様の力になっています。17年目になる今、昨年より新たに活動を始めた地域包括支援センター委員会では、これまでを踏まえつつ、これからの地域包括支援センターを今一度学び直します。私自身が、包括をやめたいと感じていた時に、「包括支援センターあり方検討委員会」に参加して、「こんなに同じ感覚の人がいるんだ、まだこの仕事を続けていいんだ。」「区市町村を越えて支えあいができる仲間がいるんだ。」と再認識できました。その時の感覚を包括で働く皆さんにも感じてほしいのです。皆さんの今の気持ちを大切に、他地域での取り組みを話の中から受け取り、気持ちを素直に出す。そういう委員会を作りました。同じ行政区では、言いづらいことも、他地域の方には聞いてもらえる。そこが委員会のいい所です。

私達一人一人には大きな力はないのかもしれませんが、この委員会で自分が一人ではないことがわかって、自然に力が湧いて出ることもあります。

月に一度皆さんと、包括の環境や状況、困りごとや業務についてなどを話し、学び、喜べる場。この委員会は都合の良いときは参加し、都合の悪いときはお休みできます。これからの包括支援センターに求められるものを皆さんで共に感じて、共有・情報交換する場になればと思います。皆さんは、人の気持ちを理解して、寄り添うことが大事な職種です。同職種にも自分にもどうぞ寄り添っていきましょう。当委員会では一緒にこれからを考えてくださる方を募集しています。これからが始まりです。どうぞご参加ください。よろしくお願ひ致します。

東京ケアリーダーズ 活動紹介

新生ケアリーダーズに向けて!!

社会福祉法人大三島育徳会 博水の郷
ばんもと たかや
東京ケアリーダーズ 代表 番本 鷹也

皆さんこんにちは、東京ケアリーダーズで代表を務めさせていただいております、番本です。

去年の今頃も私がこの活動報告を書かせていただいたのですが、なんと1年は早いもので、本当にあっという間の年でした。そして気が付けば、ケアリーダーズが結成されてもうすぐ7年になります。

今回の活動報告ですがタイトルにもあります通り、新年度に向けて新たな試みをスタートさせる意味も込めた題にしております。というのも、今まで私たちは「介護の魅力を伝える」ことを念頭に活動してきました。本を作成したり、いろんな福祉イベントにも参加させていただきました。もちろんこれらの活動は今後も継続していきます。しかし、今後の新たな試みとしては、ケアリーダーズの主催で研修をしようと考えています。

この研修の目的としては、普段介護職として従事しているケアリーダーズメンバーのスキルアップを図ると共に、メンバーではない一般職の方も参加してもらうことで、ケアリーダーズと一緒にスキルアップしてもらおうという試みです。そして、そこでできた繋がりを広げていくことでケアリーダーズの輪を大きくし、最終的に介護業界を盛り上げていけるような活動にしていければと考えています。

まだまだ認知度も低い我々ですが、新年度からもこうした新しい取り組みを続けることで、少しでも「介護の魅力」が皆様に伝わっていくように日々精進していきますので、今後ともケアリーダーズをよろしく願いいたします。それでは、次回の活動紹介でお会いしましょう。





コロナ禍での人材育成研修会の取り組み

社会福祉法人至誠学舎立川 至誠ホームスオミ・ケアハウス 施設長

人材育成研修委員会 委員長 いのうえ 井上 ふじこ 富士子

今年度も高齢者福祉施設職員の人材育成を目的に下記の2つの研修を実施しました。コロナ禍において、この3年間はオンラインでの開催です。両研修会の講師は株式会社エイデル研究所の丹羽 勝（にわ まさる）先生で社会福祉士でもあります。長年両研修会の講師をして下さっています。

1. 高齢者福祉施設におけるチームマネジメントを学ぶ研修会

14年の歴史があり640名の受講生を輩出しており大変有意義な研修となっております。以前は宿泊研修で開催していましたがコロナの感染拡大でできなくなってしまいました。この研修の目的は、今後さらに重要な役割を期待されているリーダーが、これからの自らの職業人生の道筋を描くことを支援するとともに、求められるマネジメント力のさらなる向上をめざし、それを習得できるように支援することにあります。

研修の内容については年2回のオンライン講義とその間に4回の課題提出とWEBによる個人面談も実施し、きめ細かく丁寧に受講生をフォローしています。今年度は18名が受講しています。

2. 中堅職員のための能力開発研修会

この研修は、組織の中で中核的な存在として活躍することの自覚を深め、これまでの経験をベースとしながら、自らの持つ機能（専門性）を深める意味とともに求められる役割（組織性）を実現することの意味を学ぶことにあります。そして研修を通して自分の職業人生を自ら豊かにしていくことの大切さを再確認できるものです。

研修の内容については年1回のオンライン講義とその後2点の課題提出があります。今年度は受講希望者が多く、48名が受講しています。

以上のようにコロナ禍での研修の取り組みを紹介しましたが、人材育成は今後とも重要な課題となります。状況に合わせて「創意工夫」をしてより参加しやすく有効な研修になるように努力していきたいと思えます。

読者モニターからのご意見（一部抜粋） - 第51号 - 読者モニターの皆様からいただいたご意見を紹介します！

▶コロナ禍での学生を取り巻く環境や各施設の取組みの現状を知ることができ参考になりました。（特集「福祉・介護職場への就職や福祉を学ぶ学生のいま」）

▶人材育成や施設が地域とつながる工夫をしていると伝わりました。介護福祉士だけでなく、社会福祉士を目指す学生も特集してほしいです。（特集）

▶アンケート結果は意外でもあり納得でもあった。利用者や家族へのアンケートから見える「心のうち」もあるだろうし、良い試みだと思う。（センター分科会トピックス）

▶純粋に良い記事だなあと感じる。介護士さんはみな、それぞれの志をもってこの職業に就いたのだろうと思える記事。（ケアリーダーズ活動紹介）

▶いただいたご意見はよりよい機関誌発行のために活かしてまいります。

私の心に残るエピソード

家族とともに看取りのイメージを掴む難しさ

社会福祉法人一誠会 偕楽園ホーム

看護師 **かとう みすず**
加藤 美鈴

「最期は施設で。自然な形で。」

施設利用者とその家族の中には看取り介護を望まれる方がいます。その方の意向に沿ったお手伝いができるよう、利用者・家族・医師と施設職員で話し合いを重ね対応を決定します。しかし、話が順調にまとまるとは限りません。

6年ほど前、施設でお看取りとなった方が、家族に見守られ穏やかな最期を迎えようとしていた時、親戚の方々が久しぶりに面会へ訪れ「可哀想だから早く病院へ」「医者には来ないのか」「やっぱりこのままで」と荒げた声が飛び交う場面がありました。家族から親戚への説明がなかったようで、不規則な呼吸や皮膚色の悪さに驚き心配になったそうです。その混乱する様子から、家族の気持ちや意向を整理する時間が必要だと感じ、再度話し合いの場を設けると「慌てていた」「最期について分かったつもりでいた」「その瞬間になったら頭が真っ白だった」等の言葉が聞かれましたが、最終的には対応継続となりました。その後、穏やかな最期を迎えられ落ち着いた頃、家族が施設に訪れ「これで良かったと今なら思えます」「あの時は大声ですいませんでした」との言葉をくださいました。

このケースは意向を決定してからお看取りする瞬間まで、悩み揺れ動く家族の思いに触れる機会となりました。利用者の望む最期と家族が考える最期は同じか、終末期の治療と看取り介護の違いは何か。この家族のようにその時にならなければ実感し難いことが多くあると思います。ともに時間を過ごし何が良いのかと悩む時間が、家族も看取りのイメージを掴む時間となり、最期を迎える覚悟に繋がっていくのかも知れません。



編集後記

この機関誌「アクティブ福祉」は、東京都高齢者福祉施設協議会（高齢協）の情報・広報室、広報戦略推進委員会の機関誌ワーキングチームが中心となり紙面作りに取り組んでいます。

メンバーは現在8名で、各施設の施設長や生活相談員、看護師、事務員など職種や年齢も様々です。年6回の委員会活動で、どの取り組みが読者の皆様の関心があるか、タイムリーな話題は何かなど様々な意見を交わし特集や紙面割を決めています。

その際に、とても参考にさせて頂いているのが、読者モニターの皆様より寄せられた、ご意見やご感想です。読者モニターの皆様のご意見やご感想で、気づくことや特集記事の選定、写真選びやレイアウト、紙面の色使いなど多くのヒントを頂いています。

令和5年度も新たな読者モニターを募集していますので、ぜひご応募ください。お待ちしております。

社会福祉法人 清明会

養護老人ホーム 浅川ホーム

施設長 島崎 勝弘